

第3 問題作成部会の見解

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察，構想する過程を重視する。

用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず，歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，歴史的な見方・考え方を働かせながら，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，課題の解決を視野に入れて構想したりする力を求める。『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』では，「歴史総合」で学習したことと，それを基に「日本史探究」又は「世界史探究」で学習したことを問う。

問題の作成に当たっては，事象に関する深い理解を伴った知識を活用して，例えば，教科書等で扱われていない資料であっても，そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題や，仮説を立てて資料に基づき根拠を示したり検証したりする問題，時代や地域を超えて特定のテーマについて考察する問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問

「人々にとっての様々な戦争経験」をテーマとし，Aは近代の軍隊，Bは現代の戦争を素材として，軍隊や戦争の持つ意味や影響を考察し解答させる問題である。

Aでは，近代における軍隊と人々との関係に着目して，生徒と先生の会話の場面を取り上げた。問1では，19世紀後半のヨーロッパ政治史についての内容的理解・概念的理解に基づき，複数の歴史的事象の特徴を考察する力を問うた。問2では，日本の徴兵制についての内容的理解に基づき，資料の情報を的確に読み取り，目的に応じてまとめる力を問うた。問3では，ノートの情報を読み取り，内容的理解・概念的理解に基づき，歴史的事象相互の関連性について考察できるかを問うた。問4では，戦争の性格を類型化し，地図から得た情報を踏まえて思考力・判断力・表現力等を問うた。いずれの小問も，難易度・識別力の点で標準的であった。

Bでは，現代の戦争が各地の社会にもたらした影響について，歴史総合で学んできた知識と，風刺画・資料・グラフから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。問5では，大西洋憲章についての内容的理解・概念的理解を踏まえて，風刺画を適切に読み取ることができる技能を問うた。問6では，日本とアメリカ合衆国の女性参政権についての内容的理解・概念的理解と，資料・グラフから読み取った内容とを関連付けて考察する力を問うた。問7では，20世紀から21世紀初頭における世界で見られた戦争に関する内容的理解と，歴史的事象の時系列・推移に着目して，その性質や役割等の変容を考察する力を問うた。問8では，主題を探究するための課題と学習活動を選択するという形で，探究のプロセスを意識した問いを設定した。いずれの小問も，難易度・識別力の点で標準的であった。

第2問

「歴史における旅とその役割」をテーマとし，Aは宗教上の聖地への旅，Bは宗教的・政治的指導者や王族・皇族の旅，Cは移動の自由化を素材として，歴史における旅の持つ意味や影響を考察し解答させる問題である。

Aでは，宗教と旅というテーマについて，授業に先立って博物館を見学するという場面を設定した。問1は，伊勢神宮参詣の図とワークシート，旅程例という複数の資料から，江戸時代の交通状況の特徴を考察する力を問うた。問2は，近代のメッカ巡礼の解説文を，18世紀末か

ら 19 世紀初頭にかけてのイスラーム世界についての内容的理解及び近代化に関する概念的
理解を踏まえて、適切に情報を読み取った上で、歴史的現象相互の関連に着目し考察する力を問
うた。難易度については、おおむね標準的であった。

B では、博物館見学を終えた後に、指導者の旅というテーマで、生徒と教員とが会話してい
るという場面を設定した。問 3 は、地図で扱ったアジア世界に関する 19 世紀以降の事象につい
て、地理的条件を含めて内容的に理解しているか、また地図を含む資料から適切に情報を読み
取り、さらに読み取った情報を目的に応じてまとめることができるかを問うた。問 4 は、20 世
紀初頭の国際関係についての理解を踏まえ、示された資料から、歴史的現象の時系列・推移に
着目し、必要な情報を読み取る力を問うた。問 5 は、複数の王族・皇族の訪問の事例を比較し
て、その相違点を考察する力を問うた。難易度については、おおむね標準的であった。

C では、現代社会における旅というテーマで、授業後にグループで調べ学習を行う場面を設定
した。問 6 は、第二次世界大戦以降の日本の高度経済成長期に関する内容的理解を、表の読
み取りから考察する力を問うた。問 7 では、ヨーロッパ統合に関するノートから必要な情報を
読み取る力を問うた。問 8 では、第 2 問全体のグループで考察した異なる事象を比較して、共
通点を見出す力を求めた。難易度については、おおむね標準的であった。

3 自己評価及び出題に対する反響・意見等についての見解

第 1 問

A については、歴史的な知識を基に、資料やノート、地図を読み解く小問から構成されてい
る。問 1 は西欧におけるナショナリズムの高揚の中で、フランスとドイツの事例を素材に徴兵
制が国民統合の装置として果たした役割についての構造的な理解を促す、国民国家の概念的
理解を問う良問との評価を得た。問 2 は歴史総合の学習の中で日本の内容だけを取り出した
内容になっており、「世界の中の日本」という視点での出題を期待したいとの指摘を受けた。
今後はその視点を踏まえた作問を心掛けたい。問 3 は、資料の内容が設問に十分生かされ、
時代の大枠を把握する力とともに、抽象概念として読む力を問う良問と評価された。今
後も、事実的知識にとどまらず、内容的理解や概念的な理解、思考力を問うことができ
る出題形式に取り組んでいきたい。問 4 については、歴史事象を比較する力を問う出題
であることは評価いただけたが、地図上の地域の示す範囲についてご指摘をいただい
た。今後はより配慮した作問を心掛けたい。

B については、風刺画・資料・グラフを読み取って解答する小問から構成されている。い
ずれも知識・技能を問う問題である。問 5 は、大西洋憲章の理念と実態についての概念的
理解を促す問題であり、図像資料に吹き出しを加えることで理解を促す工夫が見られる
と評価された。今後も、歴史用語の概念的な理解と、初見資料の読み解きとを組み合
わせた出題形式に取り組んでいきたい。問 6 については、資料・グラフを生かして
いないとの指摘があった。今後は、提示する諸資料と設問との間により有機的な連
関がある小問が作成できるよう心掛けたい。問 7 は三つのメモを用いた年代整序問
題で、大きな時代の流れを確認する出題で、細かい年代の知識ではない思考過程が
想定されている良問であるとの評価を得た。一方で、単なる時期の並べ替えとなっ
ていることが惜しまれるという指摘を受けたことから、より思考力を問うことが
できる出題形式に取り組んでいきたい。問 8 は探究の過程を意識した小問であるが、
探究する課題の内容と資料の年代のずれに基づいて答えを選ぶような思考過程になっ
てしまっているという評価をいただいた。より探究活動や授業内での学習の経験値
を測るために、今後の参考としたい。

第2問

Aについては、図やワークシート、解説文を読み取って解答する小問から構成されている。問1は18世紀の日本が欧米諸国と異なる経済・社会発展を遂げていたことに気付く、歴史総合の理念を反映した問題と評価された。ただし、資料の読み取りのみで正答が導ける内容との指摘もあり、知識と読解のバランスのとれた出題を心掛けたい。問2は、近代のメッカ巡礼を題材に、西洋中心に一方的に近代化が進んだという一面的な理解に対し、ローカルな伝統の継続という新しい気付きを得る意図が読み取れるという評価を受けた。今後も概念的理解を前提として新たな知識を提示し、より深い内容的理解を導き得る出題に努めていきたい。

Bについては、会話を基に、地図やノートを読み取って解答する小問から構成されている。問3は、日本史探究を選択した受験者には難しいとの指摘を受けたが、歴史事象を知識だけではなく地理的な視点で考え直させ、空間認識を問う問題という意味では良問であるという評価を受けた。今後もこのタイプの出題は積極的に継続すべきだと思われる。問4は、やや評価は分かれたものの、20世紀初頭のイギリス・ロシア・清の関係についてダライ=ラマ13世の旅を通じて描くという題材に関しては評価された。選択肢の誤答が平易であるという指摘があった。より適切な選択肢を設定するために今後の参考にしたい。問5は訪問の時期や二国間の関係性を比較して共通点を考察する、思考力・判断力・表現力等を問う問題と評価された。今後も、歴史の見方・考え方について考えさせる、歴史総合らしい出題形式に取り組んでいきたい。

Cについては、表やノートを読み取って解答する小問から構成されている。問6は高度経済成長期の日本の社会経済に関する事実的知識と資料の細かな読み取りの技能が求められる問題となっている点が惜しまれるとの意見があった。知識や資料を踏まえて時代背景や概念を問う出題を意識していきたい。問7は、実質的に知識を問う問題となっているとのご指摘を受けた。今後は、グラフや資料の読み取りと知識を組み合わせる問題に心を掛ける。問8は、大問のまとめの問題として、歴史総合が求める諸事象の比較や関連付けを通じた概念的理解に通じるとの評価を受けた。今後もこうした傾向の問題を作成したい。

4 まとめ

以上、問題作成部会として、各問の出題意図と、設問に対して寄せられた意見・評価に対する見解を述べてきた。最後に総合的な意見・評価についての問題作成部会の見解を述べ、問題作成に当たっての留意点についてまとめておきたい。

問いの対象となる資料については、文字資料、地図、グラフ、図像資料など多様な歴史資料を提示することに努めた。これは、資料やデータ等を基に考察することを重視したためである。

また、大問単位に授業を想定した大きなテーマを設定し、中間単位に授業中のやりとりを取り入れ探究的な活動を行うなど、歴史総合の学びの場面設定を踏まえた出題とした。

単純な事実的知識ばかりではなく、その歴史的事象の内容や因果関係など内容の理解を前提とした包括的理解を問う問題、さらには歴史的事象が持つ意味や意義などの概念的理解を問う問題の出題を意識した。

総じて、日本史／世界史に区分できるものではない歴史総合の科目の特性が伝わるように心掛け、知識・技能を問う問題と概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスをとり、両者の融合を図る点にも配慮した。今後もこのような方向性を維持して作題に努めたい。